

# 印刷新報

6月17日

有限会社興雄社（佐藤要介社長、東京都葛飾区）は、1994年に全国の印刷、製本会社に先駆けて渡辺通商製のタンザックを導入した。品質の堅実性”をモットーとする同社は、現在保有する3台のタンザックに渡辺通商製の各種検査装置を設置し、万に一つの不良も出さない検査体制を敷いている。さらに、顧客に向けても効率的な生産、製品の高品質化のための情報発信を行っている。

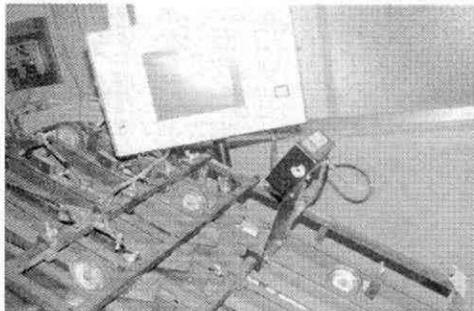
## 興雄社（東京都葛飾区）

◆タンザック3台が稼働  
興雄社は昭和35年9月に、江戸川区小岩で創業した。昭和61年に現在地に移転し、8年前に現社長が引き継ぐ。

創業以来、天金員やりと紙製の短冊で綴じる同機の環境対応性に注目し



工場1階のタンザックラインにセットされているCCDカメラ画像検査装置



2階のラインにセットされているバーコード検査装置

# “品質の差別化”を提案 タンザックに各種検査装置（渡辺）

る。

防止する。

施されている。

興雄社では、現在3台のタンザックが稼働して2階のラインには丁合後の搬送部にバーコード検査装置が設置されている。工場1階に縦型丁合機（B2サイズ、8段）連動ライン、2階に同じく縦型丁合機（A2サイズ、15段）との連動ラインとオフライン1台がある。

1階のラインには、縦型丁合機の全段にCCDカメラ画像検査装置がセットされている。カメラは1段1段で紙面の異なる箇所を読み取り、登録した画像以外では停止し、乱丁や段積みミスを検知を行うが、顧客である印刷会社に、カレンダーラインが出たので採用し

2階のラインには丁合後の搬送部にバーコード検査装置が設置されている。導入背景について次のように語る。

「以前、当社では丁合後に仕上げ裁ちし、断面検査をしていたが、それは他社との価格競争に勝てなかった。2台目のタンザックを導入する際、渡辺通商からバーコードによる検査

カメラ画像検査装置がセットされている。カメラは1段1段で紙面の異なる箇所を読み取り、登録した画像以外では停止し、乱丁や段積みミスを検知を行うが、顧客である印刷会社に、カレンダーラインが出たので採用し

また、オフラインのタンザックには名入れカレンダー用に、文字を読み取る画像品質検査装置を設置。ヘッダー部、カレンダー本体の印字どちらにも対応するよう改造が

品質の堅実性  
興雄社では、カレンダー以外にもコンサートのパンフレットやCDの歌詞カード、ファミリール管理体制を構築している（佐藤社長）

その具体的な取組みとして、自社ホームページに、バーコード検査で用いているバーコードの位置や

また、製品ミスのチェックにカメラ画像検査装置も開発し、既存機にも簡単にセットできるなど、業界で高く評価されている。



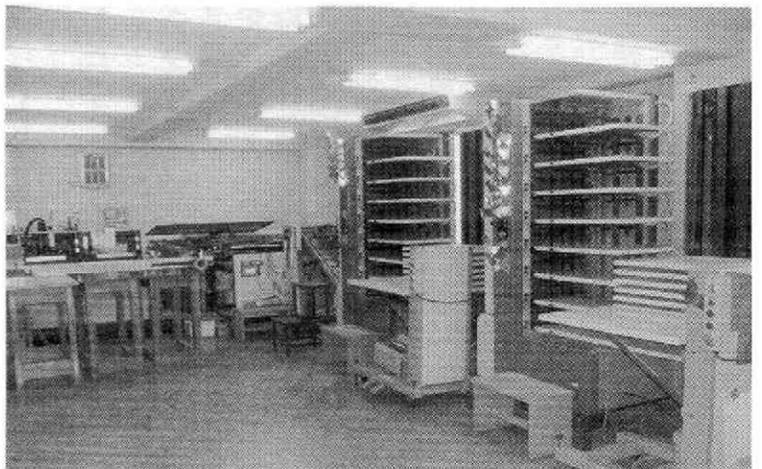
佐藤社長

にも対応するよう改造が

品質要求は高く、一部

同社の主力であるカレンダーの仕事は夏から秋にかけてが繁忙期となる

この間、金員綴じカレンダー、タンザックカレンダー製本機、糊綴じ製本機、ペーパーリンク製本機、小サイズのカード



2タワールの縦型丁合機と連動したタンザックライン

サイズ、良品、不良品の見分け方を明記し、効率的な生産、製品の高品質化のための情報を顧客に向けて公開している。品質面からの差別化”という意味で、画期的な取組みと言えるだろう。

BCブランドで40年前から丁合機を製造・販売している渡辺通商（渡辺三社長）は、A3サイズから四六全判までの丁合機を手がけ、全国にその販路を広げてきた。また、近隣国へも輸出している。